

マイ紙芝居をもちましょう!

◆紙芝居の選び方

紙芝居が大好きな私たち。一人一人が「この紙芝居こそ」と自分で選んだ『マイ紙芝居』をいつも手元に持ちませんか。どこかで借りてくるのではなく、自分自身のマイ紙芝居を。

まず、少なくとも三点のマイ紙芝居を持つと、素敵なことがおこります。

自分が選び抜き、いつも手元にある「マイ紙芝居」は、自分自身の心と共に、演じこんでいくことになります。すると、その紙芝居が「信号」を演じ手に送ってくれるようになるのです。その信号は「ほんものの紙芝居とはどういうものか」ととらえる感覚と考え方を、演じ手に渡してくれる、すばらしい信号です。

こんなすばらしい信号を受けとるには、マイ紙芝居を選ぶ時、「ほんものの紙芝居」を選ばなければなりません。ほんものの紙芝居だからこそ「ほんものの紙芝居とはどういうものか」を信号として出してくれるのですから。

では「ほんものの紙芝居」とは、どういうものなのでしょう。

まず、次の二つのことを、土台としてしっかり持っている紙芝居です。

●紙芝居ならではの『特性』が追求されている。

-「特性」とは、作品の世界が現実空間に出ていきひろがり

観客が共感によって作品の世界を自分自身のものにしていくということ。

●作品の『内容』が生きる意味と喜びを追求し、共感で受けとめることができるメッセージであること。

この二つのことを土台として「すぐれた絵画と、美しい母国語」によって表現されたものが「ほんものの紙芝居」となるのです。

では、具体的に「マイ紙芝居」の選び方を考えていきましょう。

◆紙芝居の分類

選び出す前に、まず紙芝居の「分類」をみることから始めましょう。

紙芝居は、まず大きく「二つの型」に分類でき、

二つの型にわけられた紙芝居は、各々の型の中で、更に「分野」に分類できます。

紙芝居の型	紙芝居の分野
物語完結型 『作品の構成が作品そのものの中で完結している型』 …共感をつくりだすコミュニケーションは、 演じ手と観客の言葉のやりとりや動作が介在せず、 演じ手の表情や間によって、ひきおこされます。	A 「民話」 B 「物語」 C 「科学・知識」 D 「生活・行事」 E 「平和・環境」 } 今後多様な紙芝居が作られて いく中で、更にいろいろな分野 ができていくことでしょう
観客参加型 『作品の構成が観客の参加を必要としている型』 …共感をつくりだすコミュニケーションは、 演じ手と観客の言葉のやりとりや動作によって、 ひきおこされます。	特 「共感」 ……… 共感そのもののすばらしさを渡す 独特の分野 A 「民話」 B 「物語」 C 「科学・知識」 D 「生活・行事」 E 「平和・環境」 } まだ作品数は少なく、これから 豊かにつくられていくことでしょう

ではこの分類に基づいて、どのような紙芝居があるか、代表的な作品を見てみましょう。

これらの作品は、紙芝居文化の会の運営委員が演じ、研究していく中で選び出された、おすすめ作品です。

さあ、あなたの心が求める「マイ紙芝居」を選んでみませんか。